

2022年度 日本アーカイブズ学会 総会

【 総 会 次 第 】

- 1 開 会
 - 2 会長挨拶
 - 3 議長選出
 - 4 定足数の確認
 - 5 議 事
 - (1) 2021年度事業報告 (資料1)
 - (2) 2021年度決算 (資料2)
 - (3) 2021年度会計監査報告 (資料3)
 - (4) 2022年度事業計画 (資料4)
 - (5) 2022年度予算 (資料5)
 - (6) 会則14条第1項(4)に基づく提案 (資料6)
 - (7) 役員改選 (資料7)
 - (8) その他
 - 6 その他
 - (1) 2021年度認定登録アーキビスト (資料8)
 - 7 閉 会
- <参考資料>
- ・ 会 則
 - ・ 総会運営規程
 - ・ 役員選出規程

※当日はこの資料をお手元にご用意ください。

2022年4月23日

日本アーカイブズ学会

The Japan Society for Archival Science: JSAS

資料1

2021年度事業報告（案）

1. 大会、委員会、および研究集会等の開催・準備

(1) 2021年度大会の開催

2021年4月24日（土）・25日（日）の2日間、2021年度大会をオンラインで開催した。講演会・自由論題研究発表会・企画研究会の参加申し込み数は、合計264名であった。

<総会>

定足数確認時点で180名の正会員が出席または委任状を提出しており、成立した（正会員数455名、定足数46名）。2020年度事業報告・決算・会計監査報告、2021年度事業計画・予算、ならびに会則改正が採決により承認された（採決にあたってはZoomの「リアクション」機能による意思表示を、拍手による賛成とみなした）。

<講演会>

テーマ：「公文書管理法の10年——何が違って何が変わらなかったのか」

講演者：三木由希子（特定非営利活動法人 情報公開クリアリングハウス理事長）

<自由論題研究発表会>

清水ふさ子「明治期の商事慣例調査からみる商人帳簿とその保存期限について—商法施行前の商人記録と記録管理の変化に注目して—」

阿部伊作「ハンセン病療養所内教会資料についての考察から」

西山絵里子「米国占領・統治下の沖縄における公文書管理：1945～1972」

齋藤歩「建築図面を対象としたアイテム別の記述法——アーカイブズの記述標準における方針の比較と日本における実践の分析」

橋本陽「印鑑と電子署名が持つ証拠能力とその限界：アーカイブズ・古文書学からの考察」

青木祐一・新名佐知子・清水邦俊「日本における『スポーツアーカイブズ』の可能性」

<企画研究会>

テーマ「公文書管理法の10年—これまでとこれから—」

ライトニングトーク

下重直樹（学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻）

小高哲茂（群馬県南牧村立南牧中学校）

蓮沼素子（大仙市アーカイブズ）

森本祥子（東京大学文書館）

高橋和宏（法政大学法学部国際政治学科）

(2) 委員会の開催

2021年 5月31日（月）オンライン開催

2021年 6月28日（月）オンライン開催

2021年 7月26日（月）オンライン開催

2021年 9月24日（金）オンライン開催

2021年10月18日（月）オンライン開催
2021年11月29日（月）オンライン開催
2021年12月20日（月）オンライン開催
2022年 1月24日（月）オンライン開催
2022年 2月22日（火）オンライン開催
2022年 3月15日（火）オンライン開催

(3) 研究集会等の企画・開催

研究集会 「アーキビスト教育の新展開

—大阪大学・島根大学における認証アーキビスト養成の取り組み—

2021年9月12日（日）14時～16時30分

第4回登録アーキビスト研修会とタイアップする形で、オンラインで開催した。参加登録者は108名（委員含む）、Zoom ログの参加者は130名、当日のZoom画面の「参加者」カウントのピークは98名、常時接続92～95名であった。

共催：

JSPS 科研 20K01421 「公的文書の管理・保存におけるアーキビストとジェネラリストの役割に関する比較研究」（研究代表者・高橋明男（大阪大学））

JSPS 科研 18K18528 「国際化、情報化環境における歴史資料の公共的利活用と管理に関する基礎的研究」（研究代表者・岡崎敦（九州大学））

<プログラム>

報告

菅真城（大阪大学）「大阪大学における認証アーキビスト養成教育への取り組み」

小林准士（島根大学）「島根大学の取り組み—背景と経緯」

清原和之（島根大学）「島根大学における大学院課程—アーカイブズ学分野の設置とアーキビスト養成について」

コメント

加藤聖文（人間文化研究機構 国文学研究資料館）

津覇美那子（沖縄県公文書館）

ファシリテータ

富田三紗子（大磯町郷土資料館）

<まとめ> 本研究集会では、国立公文書館によるアーキビスト認証制度がスタートしたことを受けて、大阪大学・島根大学のアーキビスト養成プログラムご担当の3氏に、プログラム設置の経緯やプログラムの概要などについてご報告いただいた。大阪大学の「アーキビスト養成・アーカイブズ学研究コース」は、教育組織ではない大阪大学アーカイブズが主体となって文学・法学・経済学研究科の協力を得て運営するコースであり、アーカイブズ学「専攻」でない「開放型」のアーキビスト養成という特徴を持つ。島根大学は、大学院人間社会科学研究科社会創成専攻人文社会コースにアーカイブズ学分野を設置するとともに、学部4年生からも履修可能な「認証アーキビスト養成プログラム」も提供するという形をとっている。3氏のご報告に続き、養成後の雇用先や実習先の確保といった課題について、あるいは地域社会との連携の可能性などについて、活発な議論が交わされた。

(4) 2022年度大会の準備

日本アーカイブズ学会2022年度大会を、2022年4月23日(土)・24日(日)の2日間、オンラインで開催することとし、以下のような内容で講演会、自由論題研究発表会、企画研究会シンポジウムの準備を進めた。

4月23日(土)

<総会>

<講演会>

講演者：根本彰(東京大学名誉教授)

テーマ：「知のアーカイブ、歴史のアーカイブ—『アーカイブの思想』を書いてみて」

4月24日(日)

<自由論題研究発表会>

第1セッション

清水ふさ子「長瀬富郎商店(現：花王株式会社)の記録作成と保管について」

金本弘之「戦後日本企業の組織運営と稟議制—山—証券における意思決定過程記録の分析を通して」

和田華子、加藤厚子、芹澤良子「四年制女子大学生の活動と記録—オーラルヒストリーの意義と可能性—」

元ナミ「韓国における地域アーカイブズ資料の収集と保存活動の現状」

第2セッション

平井孝典「19世紀フィンランドにおける公文書管理と情報アクセス—棍棒戦争関係資料をめぐる業務について—」

藤本貴子「建築物に着目した近現代建築資料の記述方法について」

坂口貴弘「電子メールの評価選別をめぐる手法とその展開：米国における議論の分析から」

佐藤崇範・齋藤歩「物理学者資料を対象としたアーカイブズ整理における日米の変遷比較—中谷宇吉郎資料を事例とした整理に向けて」

<企画研究会シンポジウム>

テーマ：「DX時代のアーカイビング」

スピーカー：

橋本陽(京都大学)「守るべき記録の特性と進めるべき業務の電子化」

岡崎敦(九州大学)「DX時代の公文書管理—『デジタルWG報告書』に寄せて—」

大橋正司・関治之(デジタル庁)「行政のオープンネスとフェアネス

—デジタル庁でDXに取り組む『民間採用人材』の視点から—」

コメンテーター

清水直哉・元島大輔(東京都)

金甫榮(公益財団法人渋沢栄一記念財団)

2. 機関誌の発行

(1) 2021年度の発行状況

①『アーカイブズ学研究』第34号（A4判、150頁） 発行日：2021年6月30日

【主な内容】

特集【2020年度大会】

講演 高橋実「日本のアーカイブズ論の歩みに学ぶ」

企画研究会「社会の多様性とアーカイビング」

趣旨説明

清原和之「オーストラリア先住民の〈記憶の管理〉実践から、アーカイブズ学の諸概念を再考する」

檜皮瑞樹「歴史資料の非対称性と歴史研究」

辻川敦「「社会の多様性とアーカイビング」へのコメント」

参加記

亀野彩「日本アーカイブズ学会2020年度大会参加記」

蓮沼素子「日本アーカイブズ学会初のオンライン大会に参加して」

福江菜緒子「2020年度日本アーカイブズ学会大会参加記」

中村友美「日本アーカイブズ学会2020年度大会参加記」

動向：湯上良「ヨーロッパにおける中近世アーカイブズに関する近年の研究動向」

加藤聖文「国文学研究資料館におけるクラウドファンディングを通じた情報発信の試み」

書評：長谷川怜「熊本史雄『史料で読み解く日本史3 近代日本の外交史料を読む』」

日向玲理「服部龍二『外交を記録し、公開する—なぜ公文書管理が重要なのか—』」

紹介：下重直樹「小池聖一『アーカイブズと歴史学—日本における公文書管理—』」

関根豊「早川和宏監修、地方公共団体公文書管理条例研究会著『こんなときどうする？自治体の公文書管理—実際にあった自治体からの質問36—』」

加藤諭「阿部武司『アーカイブズと私—大阪大学での経験—』」

伊藤匠「岸本充弘『戦前期南氷洋捕鯨の航跡—マルハ創業者・中部家資料から—』」

須田佳実「毎日新聞取材班『公文書危機—闇に葬られた記録—』」

②『アーカイブズ学研究』第35号（A4判、208頁） 発行日：2021年12月31日

【主な内容】

論文：山永尚美「行政機関で作成された映像資料とその管理手順—国立公文書館蔵「平5総」「平25内府」の映像資料群を事例に—」

特集【2021年度大会関係】

講演 三木由希子「公文書管理法の10年—何が違って何が変わらなかったのか—」

企画研究会「公文書管理法の10年—これまでとこれから—」

趣旨説明

下重直樹「公文書管理法の10年—官と民の間で—」

小高哲茂「管理法施行10年—今、館の外で考えること—」

蓮沼素子「地方公共団体のアーキビストとして—この10年を振り返る—」

森本祥子「公文書管理法施行10年で見てきたこと—国立大学文書館に勤務する立場から—」

高橋和宏「「公文書文化」の形成に向けて—外交記録公開制度を事例とする—考察—」

参加記

大野綾佳「日本アーカイブズ学会2021年度大会参加記」

鈴木麻里「日本アーカイブズ学会2021年度大会に参加して」

富田健司「2021年度大会参加記に替えて—2021年という年—」

目黒陽子「日本アーカイブズ学会2021年度大会参加記」

翻訳：ジェラード・コスコヴィッチ（藤吉圭二訳）「過去に敬意を 未来に力を—サンフランシスコGLBT歴史協会の30年—」

動向：元ナミ「大学アーカイブズにおけるデジタル記録の管理と保存への対応を考える—立教大学共生社会研究センター オンラインセミナー「大学におけるデジタル・レコードキーピング—シドニー大学の挑戦—」参加記—」

幕田兼治「アーキビスト認証—国立公文書館におけるアーキビスト養成の取組—」

富善一敏「青山英幸さんの研究活動など」

「青山英幸 主要研究業績」

書評：小島浩之「小島道裕・田中大喜・荒木和憲編 国立歴史民俗博物館監修『古文書の様式と国際比較』」

馬部隆弘「坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造—由緒論から読み解く山国文書の世界—』」

金子彩里香「ブリュノ・ガラン著、大沼太兵衛訳『アーカイヴズ—記録の保存・管理の歴史と実践—』」

古賀崇「柳与志夫ほか編『デジタルアーカイブ・ベーシックス』第1期全5巻」

紹介：柏原洋太「関東弁護士会連合会編『未来への記録—リスクを回避するための自治体の文書管理—』」

佐藤正三郎「三宅弘『「情報公開法改正」「公文書管理」の論点整理ハンドブック』」

雲然祥子「宮前良平『復興のための記憶論—野田村被災写真返却お茶会のエスノグラフィ—』」

小池駿介「宮間純一編『歴史資源としての城・城下町』」

嶋田典人「滋賀県立公文書館編『歴史公文書が語る湖国—明治・大正・昭和の滋賀県—』」

(2) 論文等の投稿状況

2021年4月から2022年3月までに論文6本の投稿があった。

3. 学会普及および対外交流活動

(1) 出版助成

2021年11月1日から2021年12月31日までの間、申請の受付を実施したところ、次の1件の申請があった。審査委員会による審査を経て、2022年2月22日付けで採択された。

申請者：坂口貴弘

書名：『続・アーカイブズ論：記録のしくみと情報社会』

著編者名：スー・マケミッシュ他著、坂口貴弘他訳

出版社：明石書店

発行予定年月日：2022年9月30日

助成額：30万円

(2) 海外関係機関との交流

①国際アーカイブズ評議会（ICA）

2021年度年次会合が、2021年10月20日にオンラインで開催され、保坂会長が出席した。ICA/PCOM役員選挙が9月下旬に電子投票で実施され、ICAのカテゴリーB会員とし

て投票権を行使した。

なお、2021年10月にICAアブダビ大会で報告を予定していた筒井弥生氏に対して、「日本アーカイブズ学会会員海外派遣に関する内規」に基づき、参加登録費の全額、または往復運賃（エコノミー）の半額を、10万円を上限として助成することが決定していた。だが、新型コロナウイルス感染症の影響により、同大会が2023年に再延期されたため（当初、2020年に開催される予定であったが、2021年に延期された）、予算を繰り越すこととした。

②国際アーカイブズ評議会東アジア地域支部（EASTICA）

本会は、2019年度から理事を務めている。2021年11月22・23日に韓国を基地局としてオンラインで総会及びセミナーが開催された。当会は、出席しなかった。

（3）国内関係機関との交流

①アーカイブズ関係機関協議会での意見交換

2022年1月21日（金）に国立公文書館で開催された同協議会に、保坂会長、富善副会長、宮間委員が出席し、学会活動の現状について報告するとともに、認証アーキビスト制度等について意見交換を行った。

②放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループでの意見交換

2021年12月16日（木）および2022年1月27日（木）、日本学術会議総合工学委員会原子力安全に関する分科会 原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連する放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループの会合に、富善副会長が出席した。活動の現状と今後の計画等について意見交換を行った。

（4）共催・後援

- ア. 第32回（2021）年次大会（主催：アート・ドキュメンテーション学会）、オンライン開催、2021年6月19日（土）、20日（日）
- イ. 史料保存利用問題シンポジウム「東日本大震災10年と史料保存—その取組と未来への継承—」（主催：日本歴史学協会／日本学術会議史学委員会）、オンライン開催、2021年6月26日（土）
- ウ. 第171回例会『公文書管理の改善を目指し、認証アーキビストが取り組むべき展望』（主催：記録管理学会）、オンライン開催、2021年11月13日（土）
- エ. 2021年度企画展「増田友也の建築世界—アーカイブズにみる思索の軌跡」（主催：京都大学総合博物館、京都大学大学院工学研究科）、京都大学総合博物館、2021年10月27日（水）～12月12日（日）
- オ. 第8回公害資料館連携フォーラムin長崎 「わくわく広げよう！公害資料館の”わ”環境と平和の重なりを考えよう」（主催：公害資料館ネットワーク、第8回公害資料館連携フォーラム in 長崎実行委員会）、長崎大学文教キャンパス、2021年12月11日（土）、12日（日）
- カ. 人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん2021）「「越境する」デジタルヒューマニティーズから「総合知」へ」（主催：情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会）、オンライン開催、2021年12月11日（土）、12日（日）
- キ. 第26回情報知識学フォーラム「研究データの管理・オープン化・利活用にどのように対応すべきか」（主催：情報知識学会）、京都大学桂図書館2F オープンラボ・リサーチコモンズおよびZOOM配信によるハイブリッド方式、2021年12月18日（土）

ク. 公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム2021 福島第一原子力発電所事故から10年の今、考えること」(主催:日本学術会議)、オンライン開催、2022年1月17日(月)

4. 登録アーキビスト

(1) 認定・更新

「日本アーカイブズ学会登録アーキビストに関する規程」に基づき、2021年10月1日(金)から31日(日)までの間、申請の受付を実施した。2022年1月10日(月・祝)に資格委員会を開催した。資料8のとおり、3名が学会登録アーキビストに認定され、3名の更新が認められた。

(2) 研修会

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、アーキビスト教育をテーマとしオンラインで実施する研究集会「アーキビスト教育の新展開—大阪大学・島根大学における認証アーキビスト養成の取り組み」(2021年9月12日〔日])とタイアップして実施した。研修会参加者については、研究集会及び本研修会の両方に申し込んでいただき、研究集会に参加の上、集会での報告や議論を受けてのレポートを提出していただいた。

5. 機関誌の電子化

2021年7月16日に第32号(2020年6月刊行)、2022年1月24日に第33号(2020年12月刊行)を、科学技術振興機構(JST)「科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)」にて公開した。今後も、刊行から1年が経過した号については、順次、J-STAGEにおいて公開する予定である。

6. 事務業務

(1) 事務内容

- ア. 会員関係事務(入会受付、会員名簿管理、会員への連絡など)
- イ. 会計事務(会費徴収、活動経費の支払いなど)
- ウ. 総会・大会・委員会準備、実施、議事録作成
- エ. 記録・アーカイブズの管理
- オ. 広報および普及活動
- カ. 他団体との交流関係事務

(2) ウェブサイト関係

- ア. ウェブサイトでの情報発信の充実と情報更新の迅速化に引き続き注力した。
- イ. ウェブサイトの更新
2021年度において、ニュースの更新は26件であった。
- ウ. ウェブサイトのアクセス履歴(2021年4月1日～2022年3月15日)
ヒット総数56,460件
- エ. ウェブサイトの充実
当会ホームページのJSASブログにてインタビュー企画The Archivistを開始し、水野保氏、富田三紗子氏、蓮沼素子氏、松崎裕子氏のインタビュー記事を掲載した。また、2020年度出版助成で採択を受けた、小谷允志氏による助成対象図書の紹介を掲載した。

(3) 広報活動

①電子メールによる「日本アーカイブズ学会からのお知らせ」の配信

2021年度において、会告、主催・後援等の行事情報、関係諸団体・会員提供の各種情報、事務連絡等につき、22回の配信を行った。

②公式SNSアカウントの運用

広報活動の一環として、FacebookおよびTwitterで本会事務局の公式アカウントの運用を行った。

(4) 学会記録保管の外部委託

2021年より株式会社ワンビシアーカイブズと契約を結び、学会記録の保管を委託している。学会記録の整理等に向けた検討を進めている。

(5) 学会推進基金の活用に関する検討

学会推進基金の活用について検討を開始した。

7. 役員（2022年3月31日現在）

2020年度総会において選出された次の25名の役員により、本会の事業を計画・実施した。

会長	保坂 裕興	(学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻)
副会長	太田 富康	(埼玉県立文書館)
	富善 一敏	(東京大学経済学部資料室)
委員	阿久津 美紀	(目白大学人間学部)
	大木 悠佑	(学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻)
	太田 尚宏	(人間文化研究機構国文学研究資料館)
	柏原 洋太	
	加藤 諭	(東北大学史料館)
	菅 真城	(大阪大学アーカイブズ)
	清原 和之	(島根大学学術研究院人文社会科学系)
	工藤 航平	(東京都公文書館)
	鎮目 良文	(たばこと塩の博物館)
	白川 栄美	(東北大学学術資源研究公開センター史料館)
	鈴木 直樹	(中央大学広報室大学史資料課)
	高江洲 昌哉	(神奈川大学非常勤講師)
	高科 真紀	(学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻)
	西山 直志	(一橋大学大学院社会学研究科)
	林 美帆	(公益財団法人水島地域環境再生財団)
	平野 泉	(立教大学共生社会研究センター)
	矢野 正隆	(東京大学大学院経済学研究科)
	福島 幸宏	(慶應義塾大学文学部)
	宮間 純一	(中央大学文学部)

	湯上 良	(学習院大学人文科学研究所)
監 事	青木 祐一	(秩父宮記念スポーツ博物館)
	渡辺 浩一	(人間文化研究機構国文学研究資料館)

8. 会員数 (2022年3月1日現在)

正会員	445名	(前年度比 9名減)
うち学生	41名	(前年度比 9名減)
賛助会員	21団体	(前年度比増減なし)

資料 2

2021年度 決算 (案)

[2021年3月1日～2022年2月28日]

1 収入の部

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
会費	2,380,000	2,490,000	110,000	一般会員 5,000円×431名 学生会員 3,000円×35名 賛助会員 10,000円×23名
大会参加費	0	38,000	38,000	大会協力金500円×76名
会誌売上	100,000	192,500	92,500	
審査・登録料	85,000	63,000	△22,000	審査料(新規) 8,000円×4名 審査料(更新) 5,000円×3名 登録料 2,000円×8名
その他収入	170,000	145,013	△24,987	会誌広告掲載料、利子等
繰越金	1,332,279	1,332,279	0	
計	4,067,279	4,260,792	193,513	

2 支出の部

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
人件費(賃金)	300,000	61,032	△238,968	事務局アルバイト等賃金
謝礼金	90,000	80,000	△10,000	大会講師謝金等
会議費	160,000	10,291	△149,709	大会打ち合わせ・会議費等
印刷製本費	1,200,000	1,199,826	△174	会誌34号・35号、大会資料等
委託料	750,000	474,555	△275,445	会誌発送、Webサイト管理等
事務費	300,000	255,488	△44,512	郵送・通信料、振込手数料、事務用品等
旅費・交通費	200,000	0	△200,000	
会費(関連機関協力費)	70,000	60,811	△9,189	EASTICA会費等
事務所賃料	410,000	404,800	△5,200	
出版助成	300,000	300,000	0	2020年度採択出版助成
積立金(学会推進基金)	0	0	0	
予備費	287,279	1,413,989	1,126,710	
計	4,067,279	4,260,792	193,513	

繰越金を除いた単年度収支では2,928,513円－2,846,803円＝81,710円の黒字決算となりました。
2020年度繰越金1,332,279円＋2021年度黒字額81,710円＝1,413,989円を2022年度会計に繰り越します。

上記の通り報告します。

2022年3月2日

日本アーカイブズ学会会長 保坂 裕興

2021年度 学会推進基金特別会計決算（案）

[2021年3月1日～2022年2月28日]

1 収入の部

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
繰入金(一般会計より)	0	0	0	
その他収入	90	78	△12	預金利子
繰越金	4,502,994	4,502,994	0	
計	4,503,084	4,503,072	△12	

2 支出の部

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
積立金	4,503,084	4,503,072	△12	
計	4,503,084	4,503,072	△12	

積立金4,503,072円を2022年度会計に繰り越します。

上記の通り報告します。

2022年3月2日

日本アーカイブズ学会会長 保坂 裕興


資料3


2021年度 会計監査報告

監査報告書

日本アーカイブズ学会会則第10条第4項の規定に基づき、会計帳簿など会計書類を審査した結果、2021年度の会計は適正に執行されていることを認めます。

2022年3月2日

監事 青木 祐一 

監事 渡辺 浩一 

資料4

2022年度事業計画（案）

1. 大会、委員会、および研究集会等の開催

(1) 2022年度大会の開催と2023年度大会の準備

2022年度大会を開催する（2022年4月23日・24日）。

2023年度大会を準備する（2023年春季開催を予定）。

(2) 研究集会の企画・開催

研究集会を企画・開催する。開催方法については新型コロナウイルス感染状況を考慮して判断する。また、首都圏以外での開催についても検討する。さらに、2023年度大会企画研究会を企画・準備する。これらの研究集会は、研究報告、シンポジウム、および見学・研修等々を行うもので、本会研究活動の中心的な場である。企画にあたっては次の諸点に留意する。

ア. 会員が相互に課題を出し合い、学会活動の方向を模索・形成していくこと。

イ. 正会員と賛助会員の積極的な意見交換を通して、共通の課題を発見し、それに取り組むこと。

ウ. 大学等教育研究機関とも連携し、アーカイブズ学の教育・普及、およびアーキビスト養成を進展・充実させること。

エ. 隣接分野・新興分野、あるいは関連諸機関・団体と交流し、共通の課題を発見し、それに取り組むこと。

オ. 海外の研究者・関連団体と交流し、研究動向を把握しながら、国際的視野のもとに研究活動を企画・推進すること。

(3) 委員会の開催

月に1回程度の頻度で委員会を開催する。新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、当面はオンラインでの開催を継続する。

2. 機関誌の発行

(1) 機関誌『アーカイブズ学研究』の発行

第36号を2022年6月に、第37号を2022年12月に発行する。刊行から1年が経過した第34号、第35号については、J-STAGEにおいて公開する。

(2) 編集企画、投稿論文の審査事務、編集事務

アーカイブズ学研究の発展のために、機関誌には、大会企画研究会や学界の動向等の成果を広く反映させるとともに、より良質な論文掲載に向けて努力する。

3. 学会普及および対外交流活動

(1) 出版助成

会員によるアーカイブズ学に関する学術図書の出版を助成する。

(2) 海外関係機関との交流

ICA・EASTICAをはじめとするアーカイブズ関係の海外関係機関との交流を進める。新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、EASTICA理事会をはじめアーカイブズ関係の国際会議への派遣を検討する。

(3) 国内関係機関との交流

アーカイブズ関係機関協議会など関係各団体との連絡を密にし、積極的な共催・後援活動を進めるなかで、協力関係の拡充を図る。

(4) 出版物の検討

アーカイブズ学の普及・教育のための出版物の刊行に向けた検討を進める。

(5) 学会推進基金の活用に関する検討

学会推進基金の活用方法について検討を進める。

4. 規程類の整備

会運営の効率化、事務遂行の安定化に向けて規程類を整備する。

5. 登録アーキビスト

(1) 登録アーキビストの認定

ウェブサイト等により積極的な広報に努める。2022年度の申請は、10月1日（土）から10月31日（月）までを申請受付期間とし、2023年2月末までに審査を行い、3月末までに申請者への通知および登録証の交付を行う。

(2) 登録アーキビストの更新

2017年度に認定した登録アーキビストの有効期間満了に伴い、2022年10月1日（土）から10月31日（月）までを更新申請受付期間とし、2023年2月末までに審査を行い、3月末までに申請者への通知および登録証の更新と交付を行う。

(3) 研修会

新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、1回程度の実施を検討する。

6. 事務業務

(1) 学会運営体制の整備

学会法人化を視野に入れ、事務体制の充実と財務基盤の強化を図る。

(2) ウェブサイト・SNSの維持管理

研究集会、後援行事等の開催案内や機関誌の発行など、学会の活動とその成果に関する情報を速やかに発信していく。より分かりやすく利用しやすい情報発信を目指して、定期的な見直しを行う。ウェブサイト・SNS（Facebook、Twitter）による情報提供が安全かつ確実にできるよう、セキュリティ対策やコンテンツのバックアップに努める。

(3) 学会記録の管理に関する検討

2004年の本会設立以来蓄積されてきた学会記録の管理・評価選別・公開等についての方針を定めるべく、調査・検討を進める。

(4) 学会活動の活性化に向けた検討

学会活動の活性化に向けた検討を行う。

資料 5

2022年度 予算 (案)

[2022年3月1日～2023年2月28日]

1 収入の部

	前年度予算 (A)	本年度予算 (B)	比較増減 (B-A)	備考
会費	2,380,000	2,320,000	△60,000	一般会員 5,000円×400名 学生会員 3,000円×40名 賛助会員 10,000円×20口
大会参加費	0	100,000	100,000	
会誌売上	100,000	100,000	0	
審査・登録料	85,000	78,000	△7,000	審査料(新規) 8,000円×5名 審査料(更新) 5,000円×4名 登録料 2,000円×9名
その他収入	170,000	160,000	△10,000	会誌36号・37号広告料、預金利息等
繰越金	1,332,279	1,413,989	81,710	
計	4,067,279	4,171,989	104,710	

2 支出の部

	前年度予算 (A)	本年度予算 (B)	比較増減 (B-A)	備考
人件費(賃金)	300,000	200,000	△100,000	事務局アルバイト等
謝礼金	90,000	90,000	0	大会講師・登録アーキビスト審査等謝金
会議費	160,000	160,000	0	総会・大会通信費、会議室賃料等
印刷製本費	1,200,000	1,500,000	300,000	会誌36号・37号、大会資料等
委託料	750,000	750,000	0	会誌発送、会誌・記録保管等
事務費	300,000	400,000	100,000	郵送・通信料、振込手数料、事務用品等
旅費・交通費	200,000	200,000	0	講演者、研究集会スタッフ等
会費(関連機関協力費)	70,000	70,000	0	ICA会費・EASTICA会費等
事務所賃料	410,000	410,000	0	国際善隣会館賃借料
出版助成	300,000	300,000	0	2021年度採択出版助成
積立金(学会推進基金)	0	0	0	
予備費	287,279	91,989	△195,290	
計	4,067,279	4,171,989	104,710	

2022年度 学会推進基金特別会計予算（案）

[2022年3月1日～2023年2月28日]

1 収入の部

	前年度予算 (A)	本年度予算 (B)	比較増減 (B-A)	備考
繰入金(一般会計より)	0	0	0	
その他収入	90	78	△12	預金利子
繰越金	4,502,994	4,503,072	78	
計	4,503,084	4,503,150	66	

2 支出の部

	前年度予算 (A)	本年度予算 (B)	比較増減 (B-A)	備考
積立金	4,503,084	4,503,150	66	
計	4,503,084	4,503,150	66	

2022年3月8日

日本アーカイブズ学会
会長 保坂 裕興 様

会員グループ活動の創設に関する提案

標記の件につきまして、2022年度総会の議案に含めていただきたく、下記のとおりお願い申し上げます。

[提案内容]

会員が、会員をつのって特に期限を定めない活動を行う部門（「部会」「分科会」などの名称が考えられる）や有期限型のグループ活動（「プロジェクト」などの名称が考えられる）を作って運営したいと思ったときに、それを委員会に提案し、委員会がそれを承認したら学会活動の一部として、会員どうし集まって活動できる仕組みを作ってはどうか？

[提案者]（五十音順）

毛塚万里 松崎裕子

* 提案者による参考資料を添付します

【参考資料】

(1) 提案の理由

- ・会員メリットが増加すること
- ・委員負担を増やすことなく、学会の活性化が期待できること

(2) 参考事例

①アート・ドキュメンテーション学会（毛塚）

毛塚が所属するアート・ドキュメンテーション学会（以下JADS）では、「SIG（スペシャル・インタレスト・グループ）及び地区部会の活動」を事業としている。コロナ禍の影響で、催事はオンラインとなり、対面催事が皆無となったが、SIG活動を通して会員相互の情報交換・懇親の場が維持されるとともに、会員以外のMLA関係者との交流も継続できている。今年度発足した新SIGの活動では、オンライン開催の支援（行事企画委員会のライセンスでの開催支援）なども一部で実現している。

JADSでは、現在3つのSIGが活動している。SIG設立者は正会員である必要があるが、活動には、会員以外の参加も許容されている。毎月1回、定例研究会を開催しているSIG「デジタルアーカイブサロン」の場合、テーマに応じて、MLA関係者とともに、大学、学生や企業等の参加がみられ、それが新規入会者を増やすことに貢献している。

各SIGは、企画に応じて、親会の行事に共催・協力したり、外部団体との独自協力で催事を開催することもある。SIG代表者は、必要に応じて役員会で活動報告を行うが、役員就任は義務となっていない。それでも一度は役員に就任している。

活動予算は、制度開始後しばらくはゼロで、SIG参加者が会費を出し合う形だった。2000年頃、年額2万（現在1万円）を会計報告不要で支給する形となった。これに伴い、総会における毎年度の事業計画・事業報告が義務となった。予算は図書館総合展への出展費用としたり、自主見学会後の懇親会補助にあてるなど会員相互の交流に役立つこととなった。

SIGが開催する研究会等は、学会メーリングリスト（会員のみ参加）を通して非SIGメンバー会員にも共有される。会誌に活動報告を載せる形で会員へ還元されている。親会はwebで広報協力する。独自にFacebook を開設するSIGもある。

「美術館図書室SIG」では、美術資料やミュージアムライブラリやアーカイブズ資料の管理・保存利用に関心のある学芸員・司書・アーキビスト・研究者等が集まる場（メーリングリスト）が実現している。2021年度には学会の文書情報・アーカイブズ管理を考えるSIGが30周年記念事業を契機に発足、活動を開始している。

※アート・ドキュメンテーション学会会則<http://www.jads.org/kaisoku/kaisoku.html>

②国際アーカイブズ評議会、米国アーキビスト協会など海外諸団体（松崎）

松崎が業務として参加している国際アーカイブズ評議会（ICA）や会員である米国アーキビスト協会（SAA）など、海外のアーカイブズ・アーキビスト関連団体にはさまざまな部会やグループがあり、多様で活発な活動を展開している。このような仕組みを取り入れることによって、日本アーカイブズ学会の活動をよりよいものとするのではないかと感じる。

以上

資料7

役員改選

2022～2023年度 日本アーカイブズ学会役員（案）

会 長（定員1名）	保坂 裕興*				
副会長（定員2名）	太田 富康*	富善 一敏*			
委 員（定員30名以内）	元 ナミ	太田 尚宏*	柏原 洋太*	加藤 諭*	
	北浦 康孝	工藤 航平*	篠崎 佑太	下重 直樹	
	杉浦 秀典	鈴木 直樹*	曾根原 理	高木まどか	
	高科 真紀*	谷合佳代子	手塚 雄太	西山 直志*	
	野邑理栄子	平野 泉*	福島 幸宏*	松崎 裕子	
	三野 行徳	宮間 純一*	湯上 良*		
監 事（定員2名）	高木 秀彰	渡辺 浩一*			（*は再任）

（参 考）

以下は、2022年2月1日付会告による立候補者である。

1. 会長候補者（定員1名）

氏 名：保坂 裕興

居住地：東京都

略 歴：学習院大学史料館、駿河台大学文化情報学部、学習院大学大学院アーカイブズ学専攻

立候補の理由：会員諸氏および本会役員と協力してアーカイブズ学の発展に寄与するとともに、率先して本会の会務総括をおこなう。

推薦者名：太田富康・富善一敏・宮間純一

2. 副会長候補者（定員2名）

(1) 氏 名：太田 富康

居住地：埼玉県

略 歴：埼玉県立文書館、県民部県史編さん室、教育局文化財保護課、埼玉県立博物館、教育局生涯学習文化財課

立候補の理由：微力ですが、学会発展のお役に立てればと思います。

推薦者名：太田尚宏・富善一敏・保坂裕興

(2) 氏 名：富善 一敏

居住地：東京都

略 歴：東京大学経済学部資料室

立候補の理由：日本のアーカイブズ学の発展とアーカイブズ・コミュニティの進展のために、微力ながらお手伝いできればと思います。

推薦者名：太田富康・太田尚宏・保坂裕興

3. 委員候補者（定員30名以内）

(1) 氏名：元 ナミ

居住地：千葉県

略歴：京都大学大学文書館助教、東京大学文書館デジタルアーカイブ部門

立候補の理由：アーカイブズ学の発展に貢献したい。

推薦者名：伊藤匠・加藤絵里子・湯上良

(2) 氏名：太田 尚宏

居住地：東京都

略歴：東京都北区北区史編纂調査会、徳川林政史研究所、国文学研究資料館

立候補の理由：これまでの経験を活かし、アーカイブズ学の発展のために寄与したい。

推薦者名：柏原洋太・加藤諭・工藤航平

(3) 氏名：柏原 洋太

居住地：千葉県

略歴：国立公文書館アジア歴史資料センター、日本銀行金融研究所アーカイブ、千葉県文書館

立候補の理由：微力ながら、アーカイブズ学の進展に貢献したいと考えたため。

推薦者名：加藤諭・工藤航平・鈴木直樹

(4) 氏名：加藤 諭

居住地：宮城県

略歴：東北大学史料館、東京大学文書館、東北大学学術資源研究公開センター史料館

立候補の理由：2020年代は多様なプラットフォームによるデジタルアーカイブの進展、公的なアーキビスト認証制度運用、国の公文書管理の電子化促進等、様々な動きが想定される。その中で教育研究・実務に携わってきた知見を本会に還元したく立候補いたしました。

推薦者名：柏原洋太・工藤航平・鈴木直樹

(5) 氏名：北浦 康孝

居住地：広島県

略歴：東京都公文書館、板橋区公文書館、早稲田大学大学史資料センター、広島大学文書館

立候補の理由：地方自治体や私立大学・国立大学とさまざまな機関で培った経験とそこで得た知見を活かして、アーカイブズ学の発展とアーカイブズの普及に尽力したい。

推薦者名：阿久津美紀・大木悠佑・菅真城

(6) 氏名：工藤 航平

居住地：埼玉県

略歴：埼玉県立文書館、国文学研究資料館、東京都公文書館

立候補の理由：アーカイブズ学および日本アーカイブズ学会のさらなる発展・普及に貢献するため、学会運営に積極的に参画したい。

推薦者名：柏原洋太・加藤諭・鈴木直樹

- (7) 氏名：篠崎 佑太
居住地：東京都
略歴：宮内庁書陵部宮内公文書館
立候補の理由：アーカイブズ学の発展に微力ながら貢献したい。
推薦者名：阿久津美紀・大木悠佑・菅真城
- (8) 氏名：下重 直樹
居住地：東京都
略歴：国立公文書館、内閣府大臣官房公文書管理課、学習院大学大学院アーカイブズ学専攻
立候補の理由：学会の運営に責任者の一人として参画し、わが国における公文書の管理をはじめとするアーカイブズの保存とアクセスの充実を図るための学術研究及び教育活動を更に充実したものとするため。
推薦者名：阿久津美紀・大木悠佑・菅真城
- (9) 氏名：杉浦 秀典
居住地：東京都
略歴：(公財)賀川事業団雲柱社 賀川豊彦記念松沢資料館
立候補の理由：アーカイブズ学のさらなる深化の為に、また各種アーカイブズが広く社会に浸透して、社会機関としてのさらなる発展となるために、微力ながらも日本アーカイブズ学会委員として貢献したいと願って立候補致します。
推薦者名：清原和之・白川栄美・鎮目良文
- (10) 氏名：鈴木 直樹
居住地：東京都
略歴：中央大学広報室大学史資料課
立候補の理由：私は、これまでに関東近世史研究会・歴史学研究会・東京歴史科学研究会で委員を務め、学会運営に携わってきました。これまでの経験を活かし、アーカイブズ学のさらなる発展に寄与できればと考え立候補いたしました。
推薦者名：高科真紀・西山直志・平野泉
- (11) 氏名：曾根原 理
居住地：宮城県
略歴：東北大学、東北大学学術資源研究公開センター史料館
立候補の理由：学会誌の編集に多少でも貢献できれば幸いです。
推薦者名：清原和之・鎮目良文・白川栄美
- (12) 氏名：高木 まどか
居住地：東京都
略歴：国文学研究資料館
立候補の理由：アーカイブズ学会での活動をとおり、アーカイブズとなる記録の生成、保存及び活用についての理論と技法について今まで学んできたことを活かしたく、今回委員に立候補させていただきました。
推薦者名：清原和之・鎮目良文・白川栄美

- (13) 氏名：高科 真紀
居住地：東京都
略歴：国文学研究資料館、学習院大学大学院、国立歴史民俗博物館
立候補の理由：日本におけるアーカイブズ学の更なる発展に寄与したい。
推薦者名：西山直志・平野泉・福島幸宏
- (14) 氏名：谷合 佳代子
居住地：大阪府
略歴：大阪社会運動協会、大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）
立候補の理由：後進の人材育成のためにも、実務家として現場にフィードバックできる
研究を深めていき、アーカイブズ界全体の底上げを実現したく、委員に立候補します。
微力ながらお役に立てることを願っています。
推薦者名：高江洲昌哉・林美帆・矢野正隆
- (15) 氏名：手塚 雄太
居住地：千葉県
略歴：鎌ヶ谷市郷土資料館、國學院大學文学部
立候補の理由：本会の設立趣旨・目的にいくばくか寄与できればと思うため。
推薦者名：高江洲昌哉・林美帆・矢野正隆
- (16) 氏名：西山 直志
居住地：東京都
略歴：一橋大学大学院、国立公文書館
立候補の理由：アーカイブズ学と日本アーカイブズ学会の発展に、少しでも貢献したい
ため。
推薦者名：高科真紀・平野泉・福島幸宏
- (17) 氏名：野邑 理栄子
居住地：大阪府
略歴：神戸大学百年史編集室、神戸大学附属図書館大学文書史料室、神戸大学大学文
書史料室
立候補の理由：「歴史資料として重要な公文書」とは何かをめぐって、移管元組織の職員、
文書館員、利用者（国民）の間に認識のズレを感じます。アーカイブズに関する諸課
題の解決に向けて、わが国におけるアーカイブズ学の発展に貢献いたしたく立候補い
たしました。
推薦者名：高江洲昌哉・林美帆・矢野正隆
- (18) 氏名：平野 泉
居住地：埼玉県
略歴：立教大学共生社会研究センター
立候補の理由：アーカイブズをとりまく環境が大きく変わるなかで、アーカイブズ学会
ができること、すべきことは何かを、会員のみなさんと考え、小さなことからでも実
行できればと思い、立候補いたしました。
推薦者名：高科真紀・西山直志・福島幸宏

- (19) 氏名：福島 幸宏
居住地：大阪府
略歴：京都府立総合資料館、京都府立図書館、東京大学大学院情報学環、慶應義塾大学文学部
立候補の理由：地方自治体での重要文化財指定の行政文書の管理運用経験と、図書館での企画調整の経験、さらにデジタルアーカイブに関する知見を活かして、日本アーカイブズ学会に貢献したいため。
推薦者名：伊藤匠・加藤絵里子・湯上良
- (20) 氏名：松崎 裕子
居住地：東京都
略歴：財団法人渋沢栄一記念財団、株式会社アーカイブズ工房
立候補の理由：アーカイブズとアーカイブズ学の大切さと面白さが伝わる情報環境の実現に寄与したく、さらに日本アーカイブズ学会の活動基盤を整えたいため。
推薦者名：伊藤匠・保坂裕興・宮間純一
- (21) 氏名：三野 行徳
居住地：埼玉県
略歴：小平市、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館
立候補の理由：これまで日本近世の記録史料管理史の研究を進め、またアーカイブズの整理や資源化に従事し、今後、大学においてアーカイブズ・アーキビスト教育に従事する予定である。これまでの経験をもとに貴会に貢献したいと考え、委員に立候補しました。
推薦者名：伊藤匠・加藤絵里子・湯上良
- (22) 氏名：宮間 純一
居住地：東京都
略歴：千葉県文書館、宮内庁書陵部宮内公文書館、国文学研究資料館、中央大学文学部
立候補の理由：アーカイブズ学および学会の発展に貢献したいと考え、立候補しました。
推薦者名：伊藤匠・加藤絵里子・富善一敏
- (23) 氏名：湯上 良
居住地：東京都
略歴：国文学研究資料館、学習院大学大学院アーカイブズ学専攻、学習院大学人文科学研究所
立候補の理由：アーカイブズ学の発展と、社会でのアーカイブズの認知度向上に寄与したいため。
推薦者名：伊藤匠・加藤絵里子・宮間純一

4. 監事候補者（定員2名）

(1) 氏名：高木 秀彰

居住地：神奈川県

略歴：寒川文書館

立候補の理由：全史料協の会務運営の経験を、日本アーカイブズ学会の運営に生かすことで、アーカイブズ学の発展に寄与したい。

推薦者名：太田富康・富善一敏・保坂裕興

(2) 氏名：渡辺 浩一

居住地：東京都

略歴：東北大学文学部、国文学研究資料館

立候補の理由：アーカイブズ学の進展に資するため。

推薦者名：太田尚宏・柏原洋太・宮間純一

資料8

2021年度認定 登録アーキビスト

<u>登録番号</u>	<u>氏名</u>	<u>居住地</u>	<u>有効年度</u>
【新規登録者】			
JSAS2021001	小川 実佳子	埼玉県	2022-2026
JSAS2021002	五島 敏芳	大阪府	2022-2026
JSAS2021003	佐藤 真名	北海道	2022-2026
【更新登録者】			
JSAS2016001	平松 晃一	東京都	2022-2026
JSAS2016003	岩橋 幹弘	東京都	2022-2026
JSAS2016004	齋藤 歩	京都府	2022-2026

参考資料

会 則

目 次

前 文

第1章 総則

第2章 目的および事業

第3章 会員

第4章 役員及び事務局

第5章 会議

第6章 会計

第7章 記録の管理、公開及び保存

第8章 会則の変更及び本会の解散

第9章 関連諸規程

附 則

【前 文】

私たちは、日本のみならず世界に遺されたアーカイブズ、そして将来のアーカイブズとなる記録の生成、保存及び活用についての理論と技法を研究し、実践するため、この学会を創設することとした。

アーカイブズは、団体、家及び個人が作成し、収受し、保存されてきた記録からなり、手書きや印刷された紙媒体のもの、電磁的記録のもの、そしてオーラルヒストリーなどからなっている。

このアーカイブズに関する科学研究は、(1)アーカイブズの管理に関する研究、(2)アーカイブズの成立・構造・伝来などに関する研究、(3)アーカイブズの教育・普及に関する研究などから構成されており、歴史学、社会学、情報学など既存の様々な学問分野の学理と連携しつつ、独自の領域をもつものである。この科学研究は、アーカイブズの保存及び関連する諸課題の解決に資するという役割を担うものでもある。

また、この科学研究と同時に、アーカイブズの保存及び関連する諸課題に対する実践を、このアーカイブズの科学研究に関わるものは求められている。

アーカイブズに関する科学研究と実践を担うものとしてアーカイブズ学を構築し、アーカイブズの適切な生成、保存、活用による平和で豊かな民主社会の実現に資するため、この会則を制定する。

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会の名称は、日本アーカイブズ学会(英文名 The Japan Society for Archival Science 略称 JSAS) とする。

第2章 目的及び事業

(目的)

第2条 本会は、アーカイブズに関する調査・研究を行い、わが国におけるアーカイブズ学の進展に寄与するとともに、アーカイブズ制度の発展に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 研究集会及び総会の開催
- (2) 機関誌及びアーカイブズ関係文献の刊行

- (3) ウェブサイトの運営
- (4) 国内外の関係団体・機関との交流
- (5) その他必要と認める事業

第3章 会 員

(会員)

第4条 本会の会員の種類は、正会員及び賛助会員とする。

- 2 正会員は、本会の目的に賛同する個人とする。
- 3 賛助会員は、本会の目的に賛同し、その事業を援助する団体とする。

(入退会)

第5条 本会に入会しようとするものは、入会申込書に所定事項を記入して申し込み、会費を納めなければならない。

- 2 本会の退会は、退会の申し出による。ただし、正当な理由なしに会費を、通知された時期までに2回滞納した場合は退会したものとみなす。
- 3 本会の目的に反する行為のあった会員、または本会の名誉を著しく傷つけた会員に対しては、総会の議決によって会長は、退会を勧告することができる。

(会費)

第6条 会員は、当該年度の年会費を、通知された時期に納入するものとする。

- 2 会費の額は、総会の議決をもってこれを定める。
- 3 納入した会費は、これを返還しない。

(会員の権利)

第7条 会員は、次の権利を有する。

- (1) 総会への出席
- (2) 本会機関誌及び連絡・通信物の受領
- (3) 本会主催事業への参加

(正会員の権利)

第8条 正会員は次の権利を有する。

- (1) 総会における議決
- (2) 本会機関誌等への投稿
- (3) 本会研究集会における研究発表

第4章 役員及び事務局

(役員)

第9条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 委 員 30名以内
- (4) 監 事 2名

(役員の仕事)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、会長の責務を代行する。
- 3 委員は、会務を執行する。
- 4 監事は、会計を監査する。

(役員を選出・任期)

第11条 役員は、総会で選出される。

- 2 役員の仕事は、1期2年とし、再任は妨げない。但し、同じ役職では3期6年を上限とする。
- 3 任期途中で役員に欠員ができ、会務の執行等に支障を生ずるおそれがあるときは、これを補充す

ることができる。補充役員の任期は、当該役員の残任期間とする。

(事務局)

第12条 本会に事務局を置く。

2 事務局に専任の職員を置くことができる。

第5章 会議

(会議の種類)

第13条 会議は、総会及び委員会とする。

(総会)

第14条 総会は、本会最高の決定機関であって、この会則において別に規定するもののほか、次の事項を議決する。

(1) 事業計画及び収支予算に関する事項

(2) 事業報告及び決算の承認に関する事項

(3) 委員会において総会に付議する必要があると認めた事項

(4) 総会出席正会員から提案され、議案として認められた事項

2 総会は、年1回会長が招集して開催する。この他、正会員の5分の1以上から書面で総会に付議すべき事項を示して総会開催請求があったとき、又は会長が必要と認めるとき、会長は臨時にこれを招集する。

3 前項の規定にかかわらず、会長が総会を招集する暇がないと認めるときは、会長はその決定すべき事項(第5条第3項に規定する退会の勧告、第6条第2項に規定する会費の額の決定、第11条第1項に規定する役員の選出、第20条に規定する会則の変更、及び第21条に規定する本会の解散を除く。)を委員会の承認を得て処分することができる。

4 前項の規定による処置については、会長は、次の総会においてこれを報告し、その承認を求めなければならない。

5 総会は、正会員の10分の1以上の出席をもって成立する。

6 総会の議決は、出席正会員の過半数の同意による。

7 総会の議長は、出席正会員のうちから選出する。

8 総会の会議録は、議長が署名し、速やかに公開する。

(委員会)

第15条 委員会は、会務の執行に関する事項を審議決定する。

2 委員会は、会長が副会長及び委員を招集して開催する。

第6章 会計

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入及びその他の収入による。

2 本会の会計年度は、3月1日に始まり、翌年2月末日に終わる。

3 収支決算は、毎会計年度終了後、監事の監査を経て、総会に報告しなければならない。

第7章 記録の管理、公開及び保存

(記録の管理)

第17条 会務の執行等にあたっては、適切な記録の管理を行わなければならない。

(記録の公開)

第18条 本会の記録は、原則として公開しなければならない。

(アーカイブズの保存及び公開)

第19条 本会の記録のうち、永続的保存価値を有すると認められるものは、アーカイブズとして保存し公開しなければならない。

第8章 会則の変更及び本会の解散

(会則の変更)

第20条 本会会則の変更は、総会の議決を得なければならない。

(本会の解散)

第21条 本会の解散は、総会において正会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第9章 関連諸規程

(関連諸規程)

第22条 会務執行等に必要な諸規程は、別に定める。

附 則

(施行期日)

この会則は、2004年4月24日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2008年4月19日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2011年4月23日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2013年4月20日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2015年4月25日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2016年4月23日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2021年4月24日から施行する。

(事務局)

事務局は、下記のところに置く。

〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5
国際善隣会館5階

総会運営規程

(目的)

第1条 この規程は、日本アーカイブズ学会会則第14条に定める事項のほか、同第22条の規定にもとづき、総会の運営に関し必要な事項を定める。

(司会者)

第2条 司会者は、会長が指名し議長決定までの責任を持つ。

2 司会者は、仮議長となって議長を選出する。

(議長)

第3条 議長は1名ないし2名とする。

2 議長は、総会の秩序を保持し議事を整理して会議の運営と進行に責任を持つ。

3 議長は、会則第14条第3項により定足数を確認の後、総会の成立を宣言する。ただし、出席者が定足数に満たないときは、休息又は散会あるいは延会を宣言する。

(書記)

第4条 議長は、議事を記録するため出席正会員のなかから書記2名を指名する。

(発言者)

第5条 会議で発言する場合は挙手し、議長の指名を受けなければならない。

2 議長より指名を受けたときは、発言に先立ち、氏名を明らかにしなければならない。

(議案の提出)

第6条 会則第14条第1項第4号により提案をする場合は、次の各号による。

(1) 提案要旨を総会の30日前までに会長に提出しなければならない。

(2) 前号に定める期限以降に、緊急の事情により提案の必要が生じた場合は、総会開始までにその事由と要旨を会長に申し出なければならない。

(採決)

第7条 議長は、採決を行うときは、その旨を宣言する。

2 採決は、次の方法の一つとし、議長はその方法を会議に諮って採決する。

(1) 拍手

(2) 挙手

(3) 無記名投票

3 採決の順序は、原則として議案に対する否決、修正、賛成の順序で行う。

4 採決を行った場合は、議長はその結果を宣言する。

(発言停止、退場)

第8条 議長は、この規程に違反し、注意に従わない者を発言の停止あるいは退場させることができる。

(議事録)

第9条 総会の議事録には、次の各号に掲げられた事項が記載されなければならない。

(1) 開催日時及び開催場所

(2) 出席正会員数

(3) 議長選任の経緯

(4) 開会宣言

(5) 報告事項の概要

(6) 審議事項の概要およびその審議結果

(7) 閉会宣言

(規程の変更)

第10条 この規程は、総会の承認を受けなければ変更することができない。

(その他)

第11条 この規程に定めるもののほか、総会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、2005年4月5日開催の第12回委員会の議決により暫定的に施行する。

2 この規程は、2005年4月23日から施行する。

役員選出規程

(目的)

第1条 この規程は、日本アーカイブズ学会会則第11条に定める事項のほか、同第22条の規定にもとづき、役員選出の方法に関し必要な事項を定める。

(立候補)

第2条 役員に立候補しようとする者は、委員会による役員の改選又は補充の告示にしたがい、立候補する役職名とともに、その旨を委員会に届け出るものとする。

2 届出には正会員3名以上の推薦を要する。

(役員候補の決定)

第3条 委員会は、次の方法により役員案を総会に提案する。

(1) 立候補者は全員を総会に提案する。

(2) 立候補者数が前条第1項により告示された定数に満たない場合には、必要に応じて、委員会が本人の同意を得て選出し総会に提案する。

(総会による選出)

第4条 総会では次の方法により役員を選出する。

(1) 候補者数が第2条第1項により告示された定数と同数の役職は、総会運営規程第7条の規定に基づき選出する。

(2) 候補者数が第2条第1項により告示された定数を越える場合には、投票により選出する。

(投票)

第5条 投票は、第2条第1項により告示された定数に応じて、無記名連記方式で行う。

2 投票用紙は会場で有権者に配布された所定のものを用いる。

3 当選者は、役職ごとに得票数の多い者から当該定数を選出する。ただし、得票数が等しい場合は抽選によって順位を定め選出する。

(規程の変更)

第6条 この規程は、総会の承認を受けなければ変更することができない。

附 則

(施行期日)

この規程は、2005年4月23日から施行する。